



(公社)静岡県獣医師会長賞

## ロコとモコ

五年 向笠陽大

ぼくの家には、ロコとモコという2ひきのねがいます。

ロコは、生まれた時から人に飼われていたので、どの人に対してもなつっこくて、おなかを見せてゴロンとします。

ロコを飼い始めて一年ほどしてから、ノラねこが家に現れるようになりました。

お母さんは、そのガリガリにやせたねこがかわいいそうで、エサをあげようと思いましたが迷ったそうです。

ぼくなら、すぐにでもエサをあげます。お母さんは意地悪しているのかと思いました。

この時、お母さんはエサを一度あげたら、またここにエサをもらいに来ることを思い、ノラねこにとっての幸せを考えていたそうです。たしかに「かわいいそうだから家で飼う」ことは、人間の勝手な思いのような気がします。

でも、この後お母さんはエサをあげました。家で飼うことになったとしても、最期まで責任を持つことを、しっかりと心の中で確認したそうです。

ノラねこは、エサを食べている時も耳をピクピクさせ、けいかいしているのがすぐ伝わってきました。ぼくは、そんな風に食べている姿を見て、ノラねこのきびしい世界の一部を見た気がして心が苦しくなりました。

ノラねこは、朝と夕方にエサを食べに来るようになり、ぼくが近くで見ていると逃げなくなりました。この頃からモコと呼ぶようになりました。モコは、ぼくの家のまわりの畑にいつもいるようになりました。

ぼくはもっとモコをなでてあげたり、お世話をしたいと思いました。

風が強くて大雨の日の朝、びしょぬれでエサを待っていたので、家の中に入れてあげました。モコはおとなしくだっこさせてくれました。ぼくの家はこのままずっといてほしいと思いましたが、エサを食べると、また雨のふっている外へ出て行きました。それがモコの答えなのかなと思い、むりに家にもどすのはやめました。

でも次の日から家に入りたくなくなると、窓の近くで待っているようになり、自由に出入りするようになりました。少しずつ家でくつろぐことが多くなり、今では一日中家で過ごしています。おなか丸出しでねたり、なでてあげると目をつむって、ゴロゴロとのを鳴らして幸せそうな表情をします。

お母さんやぼくが心配していたモコにとっての幸せの答えを表現してくれているかのようにです。

モコの出した答えは、ぼくが望んでいた答えでした。

ロコとモコ、二匹とも生まれたところも育ち方もちがうけど、大事な家族の一員です。